

連載

59 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (64歳・内科)

「先生は家に往診してくれるのかねえ」と、
85歳の女性にナンパされた、当時54歳の青年医師？



平成15年秋ころ、松山市内の在宅患者さん宅へ訪問診療に向かうため、駐車場から歩き始めた時のことでした。私の背中越しに誰かが声をかけてきたのです。振り向いてみると、一人の老婦人が押し車にもたれて立っていました。その老婦人に「先生は家に往診してくれるのかねえ。最近しんどくて、腰も痛いので病院へも行けなくなったのよ」そう言われた私は、とりあえずその方の自宅へ同行したのです。

老婦人には、脳梗塞後遺症、脊柱管狭窄症、直腸がん術後などがあり、最近閉じこもり寝たきり傾向の独居生活をされていました。お話をしている最中、窓を叩く音がしたので注視してみると、1匹の白猫が立ち上

がった状態でそこにいました。窓を開けてみると、さらに2匹の黒猫が連れ立っていました。周囲から注意をされながらも、老婦人はその猫たちにエサを与えていたようです。私は思わずその猫たちに「あなたたちのお母さんはもう大丈夫だよ」と声をかけました。それを聞いた老婦人は、目を細めて楽しく幸せそうな様子でした。

そして、市内に住む娘さんの同意を得て、ヘルパーさんの協力もあり在宅医療を開始しました。それから3匹の猫も含め、その老婦人とは長いお付き合いとなったのです。

平成24年夏ころ、転倒骨折のアクシデントや合併症の悪化のため、やむをえず入院となりました。しばらくして、苦しまずに天国へ旅立たれたと報告を受けたのですが、老婦人は最期まで、3匹の猫をずっと気にかけていたようです。

人と人の絆は、突然やって来ると言われ、将来のことは、偶然で予期できないとも言われます。しかし、最近の量子力学レベルの研究では、お互いの量子どうしが波動を出し合い、確認し合っていると言われています。

私自身の短い人生でも、本気で念じてみた時の強い想いで、運命的な出会いや良い結果を招いたということを、幾度となく体感しているのです。ですから今後も、気配りとか将来のポジティブな夢を大切にしていきたいと思っています。

「お医者さんが来てくれる」

24時間・365日態勢で対応(松山市全域)

私たちは質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。



医師数 19名

(常勤6名、非常勤13名)

内科・外科専門医 16名
(国立がんセンター勤務歴有3名)

精神科専門医 2名

麻酔科専門医 1名
(ペインクリニック科)

末期がん治療(緩和ケア)
相談室開設!

Hyper Blood Viscosity(高血液粘度群)を科学する
臨床生命科学(体質・病態学、栄養学)研究所開設

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>